

(1) 基本計画(ごみ編)の構成について

基本計画では、ごみ減量化の対する重点施策として、第四章 第三節で、排出規制として6項目、ごみ減量/リサイクルとして、13項目、計19項目が記載されています。

これらの重点施策に対する見直し及び評価として、第一章 第四節に、各施策毎に、計画の各段階において進捗状況を PDCA サイクルで、毎年、点検・評価すると記載されていますので、大変良いと考えています。

質問ですが、しかしながら、PDCA の P,つまり、計画は、この「基本計画(ごみ編)」の素案ですが、計画内容は文字のみで記載されており、計画に対する日程がありません。

これでは、PDCA の D(計画の推進)、C(進捗状況の評価)が出来ないと思います。何をもって、進捗状況を確認するのでしょうか？

よって、重点施策に対する日程計画を添付することが必須と考えます。また、ごみ減量化の課題は大変重要ですので、日程計画も、バーチャートだけではなく、「いつからいつまでに」、「誰が」、「何をやるのか」等も記載したアクションプログラム付の日程計画が不可欠と考えます。

このような日程計画があり、毎年、進捗状況が見直しされるのであれば、行政と住民のパイプ役である我々推進員が、この日程計画を住民に説明する際、容易に、理解して頂けると思います。

質問を整理すると、

- ① PDCAサイクルによる、毎年の点検評価(D と C)を、どのようにするのか、ご教示願いたい。
- ② 基本計画の中に、施策毎の日程計画(アクションプログラム付き)を添付願いたいと要望しますが、どうでしょうか？

(2) 重点施策の考え方について

最初の質問と、若干重複する提案になりますが、先程、説明させて頂きましたが、基本計画(素案)では、19項目の重点施策が記載されています。

基本計画(素案)の中で、第三章 第二節で、野田市のごみの現状が記載されており、ごみ組成の特徴として、紙類の組成割合が48%と最も高いことと、水分の割合が49%と高いことが特徴と記載されています。

この特徴を踏まえ、水分を含んだ生ごみと、紙類の減量に重点的に取り組む必要があると記載されています。

この考え方は、ごみ減量化対策として、速効性が期待できると考えますが、課題は、その取り組み方と思います。

先程、説明させて頂きましたが、この基本計画の重点施策は、19項目もあります。これでは、市の職員数、推進員のやる気も低下すると思いますので、重点施策は、生ごみと紙類の減量に絞ってはどうか？

これ以外の重点施策として記載されているものは、「その他の施策」等の表現にした方が良いと考えます。

最大のポイントは、パレート分析で示された、生ごみと、紙類の減量を重点施策として、行政、推進員、住民が協力し、早期に、効果を出す事ではないでしょうか？

二つ目の質問は、質問ではなく、提案となっていますが、前向きに、ご検討願えればと思っています。